

## 市民と行政が混沌としていた時代の思い出

田口俊夫

2023年6月20日

市民協働や共創社会という言葉が、目新しい言葉として使われている。昔、正確には1960年代や70年代には存在しない、という前提がある。それは違うかもしれない。私が知る限り、70年代と80年代には確実に同じものがあつた、かつ実に活発であつた。市民と行政が対等であり、かつ行政マンが市民であり、そして市民活動家でもあつた。市民と行政マンが混然として、市民の視点を共有して地域のまちづくりに邁進していた時代であつた。

田口が1979年、都市デザイン担当として大岡川プロムナード（南区）をやり始めた頃、市の下水道局河川部や公害対策局の若手職員たちは市の公的方針の変化を待たず、自分たちが必要と考えた河川の浄化と河川の市民利用の視点から行動を起こしていた。ほどなく、彼ら彼女らは「川を考える会」という任意団体をつくりと田口と協働し、その過程で、多くの市民や行政マンを巻き込み活動していく。田口と共通する意識は、組織内で偉くなろうと考えず、自分たちが必要と考えることを損得を考えず行動することであつた。田口の後任として都市デザイン室に異動した宮澤好も、同じであつた。

仮に「市民協働」が、市民と行政側がそれぞれの立場を尊重し依拠しつつ協働する関係をもつこととすると、かつてのような「混然一体」となった人間関係は難しいだろう。田口が都市デザイン室から異動して、港南区役所建築課（1983～1985）で区内の建築指導業務を担当していた当時、市の規制方針が廃止される中で、港南台の戸建て住宅地で建築協定締結を促進した。正確に言えば、細郷市政になってから、それまで田村たちが作った建築規制が大幅に緩和され、日本住宅公団が開発した港南台でも人口密度規制がなくなり、戸建て住宅地が分割される恐れが出てきた。当時の建築局の方針が規制廃止でも、区役所の現場のいち係長としては反対を唱え、それに代わる建築協定を地元の人たちと作ることを地元町内会に打診した。お知らせを区役所から出し、それに唯一答えてくれた町内会があつた。頻繁に夜、地元で会合がもたれ、田口はすべて出席した。長女が麻疹にかかり、高熱をだしている時にも出席した。会合後、電話して落ち着いたことを聞いて安心した憶えがある。これは混然一体でなく、比較的行儀よく市民と行政側（行政全体でなくその部分）が役割を果たした事例かもしれない。行政側といっても、当時の区役所建築課の課長が支援してくれただけで、実質一人でやってきた。それでも、建築協定がやっと認可された時に、地元から連絡をもらった時は嬉しかった。

次に、港南区役所から都市計画局の新本牧開発室（1985～1989）に異動する。中区本牧にある米軍接收跡地の再開発事業を担当することとなる。ここで強烈な出会いがあつた。子供たちの冒険遊び場づくりを進める「いいじゃん会」との出会いである。ここではもはや、役所なのか市民なのか判別しきれない混沌とした活動状況が出現する。最初の出会いは、新本牧開発室の建築担当係長として赴任した日に、本牧の住民グループ代表が歴史研究をし

ており、その成果を印刷物にまとめるので、新本牧開発室から補助金をいただきたい、との申入れをしにきた。前任の係長時代に内諾を与えていたようで、当然もらえるものとして来庁してきた。そこで、田口は正論をぶって、「個人的活動に対して公金を支出できない、仮に支出するならば地域にとってどのような意味があるのか」と問うた。なんと生意気な若手係長だと、思ったらしい。このグループにいいじゃん会の主要メンバーがいた。彼ら彼女らは米軍から返還されて、これから区画整理事業で土地造成にかかる山頂公園予定地（和田山）を、子供たちの冒険遊び場にしようとしていた。その前段として、いろいろな市民向け活動をしかけてきた。手づくり無動力車レース大会、草むらでのお月見会、ホンチ大会（クモの闘い）などなど。あまりにも、面白そうなので、会場としての利用を許可するだけでなく、娘たちをつれて自分も参加してしまった。その内に、会員になってしまい、いいじゃん会の目的を達成するにはどう行政側を動かせばいいかを共に考えるようになる。会の主要メンバーが本牧で自由教育の幼稚園をやっている、そこに夜な夜な集まり戦略会議をする。会には元々中区職員だった若手職員もいて、建築家や郷土史家そして主婦などが集まる愉快的な場だった。ついには、新本牧開発室からの委託費を計上し、本牧の三世代遊び場マップを明治大正昭和の古老たちに聞き取り調査をして、作り上げた。実は、当時の新本牧開発室の予算は潤沢だった。区画整理事業の費用を捻出する「保留地処分金」の価格がバブル期にさしかかり、高値で売れる見込みとなったからである。このような活動の最後に、いいじゃん会から山頂公園のあり方への要望書を市に提出した。これで、市が勝手に「公園づくり」をできない状況ができた。活動実績のある市民グループの声をいかに反映させるかのモデル事例かもしれない。

1980年代には、このような活動的市民グループが市内各地で多様な活動を展開していた。谷戸の田圃を保存する活動をした団体（戸塚区舞岡町）は結果的に、その区域を公園化し、その管理を役所から任せられるまでになった。行政職員も個人の資格で参加し、又は主導的役割を果たしていた。それらに共通する点は、参加メンバーが楽しんでやっていることである。行政内で閉塞感がある状況を打破するために、市民と共に行動する。それも一つの方法である。重要な点は、最後まで責任をもつことである。それがなければ、誰も信用しないし、活動も尻すぼみとなる。どうも「市民協働」といった場合、市民と行政が離れた立場で、相手を警戒しながら形式的に共同する雰囲気を感じてしまう。市民も行政も混然一体となって活動することが本来の姿でないだろうか。

# 今、生きているいのち

「ふくろうの木」が昔のままの姿で、と雖うは無理な注文でしょうか、この木々の元は、今なお生命の営みが続かれています。

## 鳥類

鳥類は、この木々の周囲で最も多く見られる動物です。その中でも、この木々の周囲で最も多く見られるのは、この木々の周囲で最も多く見られる鳥類です。この木々の周囲で最も多く見られる鳥類は、この木々の周囲で最も多く見られる鳥類です。

## 動物

動物は、この木々の周囲で最も多く見られる動物です。その中でも、この木々の周囲で最も多く見られるのは、この木々の周囲で最も多く見られる動物です。この木々の周囲で最も多く見られる動物は、この木々の周囲で最も多く見られる動物です。

## 昆虫

昆虫は、この木々の周囲で最も多く見られる動物です。その中でも、この木々の周囲で最も多く見られるのは、この木々の周囲で最も多く見られる昆虫です。この木々の周囲で最も多く見られる昆虫は、この木々の周囲で最も多く見られる昆虫です。

## 樹木

樹木は、この木々の周囲で最も多く見られる動物です。その中でも、この木々の周囲で最も多く見られるのは、この木々の周囲で最も多く見られる樹木です。この木々の周囲で最も多く見られる樹木は、この木々の周囲で最も多く見られる樹木です。

## 草花

草花は、この木々の周囲で最も多く見られる動物です。その中でも、この木々の周囲で最も多く見られるのは、この木々の周囲で最も多く見られる草花です。この木々の周囲で最も多く見られる草花は、この木々の周囲で最も多く見られる草花です。

# ふくろうの木 がある丘 の話

「ふくろうの木」がある丘の話。この木々の周囲で最も多く見られるのは、この木々の周囲で最も多く見られる鳥類です。この木々の周囲で最も多く見られる鳥類は、この木々の周囲で最も多く見られる鳥類です。

この木々の周囲で最も多く見られるのは、この木々の周囲で最も多く見られる鳥類です。この木々の周囲で最も多く見られる鳥類は、この木々の周囲で最も多く見られる鳥類です。

この木々の周囲で最も多く見られるのは、この木々の周囲で最も多く見られる鳥類です。この木々の周囲で最も多く見られる鳥類は、この木々の周囲で最も多く見られる鳥類です。

この木々の周囲で最も多く見られるのは、この木々の周囲で最も多く見られる鳥類です。この木々の周囲で最も多く見られる鳥類は、この木々の周囲で最も多く見られる鳥類です。

いいじゃん会の活動パンフ